

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り



平成31年1月30日(N0.117)

浦幌町教育委員会

浦幌町教育研究所

CS推進道東ブロック協議会

1月22日、浦幌町を会場に北海道教育委員会主催「コミュニティ・スクール推進道東ブロック協議会」が開催されました。

十勝、釧路、根室の各教育局の指導主事や社会教育主事の皆さんが、浦幌町で行わ

れている「小中一貫CS」の取組をもとに研究協議を行いました。

浦幌の説明に対し、専門的な見地から多くのご示唆をいただきましたことに感謝を申し上げます。以下は、主に協議された事項です。

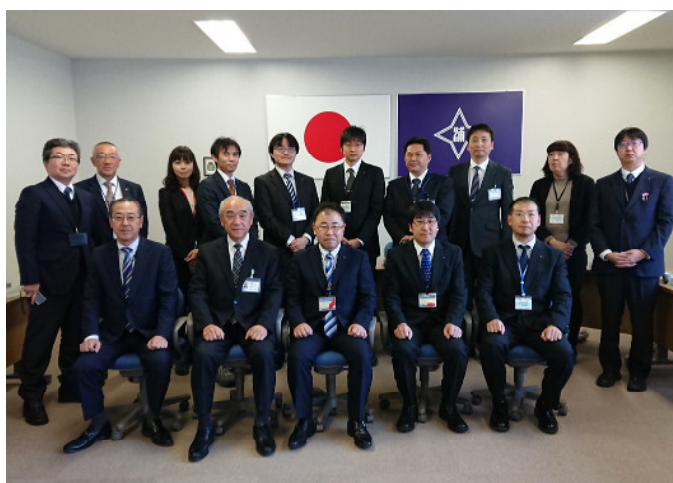
(1) 「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」の役割の違いやかかわりについて

○学校運営協議会は、学校教育をフィールドとして学校支援ボランティアなどによる支援を行っている。学校・家庭・地域の協働により、「熟議」を通し、望ましい子供像やアクション・プランを明確にし、達成に向けた取組を進めている。

地域学校協働本部は、社会教育をフィールドとして、公民館活動をしている人や団体・サークル、企業等が中心となって、地域活動や学校支援を行っている。学校運営協議会と地域学校協働本部が両輪となって活動を進めていくことが大切。



(2) 当事者意識の高揚と学園・学校評価の活用について



○浦幌町においては、小中一貫教育を推進する教職員の組織(学習指導部、生徒指導部、うらスタ部)づくりから進めたことが当事者意識を高めている。

各学園では、年2回評価アンケートを実施して結果を分析・検証し、改善を図るために保護者、地域、教職員等で「熟議」を行っている。

検証改善サイクルを機能させ、学校や家庭、地域の連携・協働による学校改善や教育課程の改善、地域の活性化

を促している。

また、小中一貫CSの組織と校務分掌との一体化、働き方改革との連携も進めている。

浦幌町に転入してきた教職員に対しては、CS研修会や町内史跡めぐりのバス学習等を通して理解を深めている。異動に伴う活動の停滞を避けるため、事業のデータ化に取り組んでいる。

(協議の後、浦幌学園において教育現場における活動について協議が続けられた。)